

項目	内容
名称	アンペロプシン [英]Ampelopsin [学名]-
概要	アンペロプシンは、ヤナギ科、クロウメモドキ科、ブドウ科などの植物に含まれるフラボノイドである。
法規・制度	<p>■ 食薬区分</p> <p>「専ら医薬品として使用される成分本質 (原材料) 」にも「医薬品的効能効果を標ぼうしない限り医薬品と判断しない成分本質 (原材料) 」にも該当しない。</p>
成分の特性・品質	
主な成分・性質	<ul style="list-style-type: none"> ・分子式 : C₁₅H₁₂O₈、分子量 : 320.253 (101)。 ・別名、ジヒドロミリセチンともいう (101)。 ・ヤナギ科、クロウメモドキ科、ブドウ科、イチヨウ科、カツラ科、ツツジ科、ハンニチバナ科、フトモモ科、マツ科の植物に含まれるフラボノイドである (PMID:26240190) (102)。
分析法	<ul style="list-style-type: none"> ・ <i>Hovenia dulcis</i> Thunb果実茎抽出物のアンペロプシンを逆相HPLCで定量した報告がある (PMID:26240190)。
有効性	
ヒトの循環器・呼吸器での消化系・肝臓	<p>調べた文献の中に見当たらない。</p> <p>RCT</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ NAFLD患者60名 (試験群30名、平均46.9±8.44歳、中国) を対象とした二重盲検

評価	無作為化プラセボ対照試験において、アンペロブシン300 mg×2回/日を3ヶ月間摂取させたところ、肝酵素濃度 (ALT、AST、 γ -GTP)、血糖値、HOMA-IR、血中脂質 (LDL-C)、ApoB、TNF- α の低下とアディポネクチンの増加が認められた。一方、体重、血圧、インスリン濃度、血中脂質 (TG)、超音波検査による脂肪肝の進展度に影響は認められなかった (PMID:26032587)。
糖尿病・内分泌	RCT ・2型糖尿病患者70名 (試験群36名、平均64.4±10.1歳、中国) を対象とした二重盲検無作為化プラセボ対照試験において、藤茶を2回/日 (アンペロブシン平均970 mg/日含有)、1ヶ月摂取させたところ、空腹時血糖値、糖化アルブミン、シスタチンC、レチノール結合タンパク質4の低下が認められた。一方、空腹時のインスリン濃度、HOMA-IR、C-ペプチド、食後2時間の血糖値、インスリン濃度、C-ペプチド、BUN、クレアチニン、尿酸、尿中微量アルブミン、血中脂質 (TC、TG) に影響は認められなかった (PMID:30089792)。
生殖・泌尿器	調べた文献の中に見当たらない。
脳・神経・感覚器	調べた文献の中に見当たらない。
免疫・がん・炎症	調べた文献の中に見当たらない。
骨・筋肉	調べた文献の中に見当たらない。
発育・成長	調べた文献の中に見当たらない。
肥満	調べた文献の中に見当たらない。
その他	調べた文献の中に見当たらない。
参考文献	(91) Registry of Toxic Effects of Chemical Substances (RTECS) (101) Pub Chem (PMID:26240190) J Chromatogr Sci. 2016 Feb;54(2):130-5. (PMID:26032587) Pharmacol Res. 2015 Sep;99:74-81. (PMID:28614988) Pharm Biol. 2017 Dec;55(1):1868-1874. (PMID:30089792) Eur J Clin Nutr. 2018 Aug 8. (PMID:26757127) Neuro Endocrinol Lett. 2015;36 Suppl 1:46-52.